

# 総合診療部 General Medicine

# 総合的な診療で 健康上の悩み解決へ



群馬大医学部附属病院  
総合診療部

## 小和瀬 桂子 教授

こわせ・けいこ 群馬県生まれ。1995年群馬大医学部卒。専門は内科と総合診療。趣味は読書と音楽鑑賞(クラシック)。大学5年時に東日本医科学学生総合体育大会バドミントン女子ダブルスでベスト8

昨年11月、群馬大医学部附属病院総合診療部教授に小和瀬桂子さんが就任し、同院初の女性教授が誕生した。長年同院の総合診療に携わり、特定の臓器や疾患に限定しない幅広く総合的な診療に努めてきた。小和瀬教授は「かかりつけ医でも診断がつかない、どこの診療科にかかったらいいのかわからないといった原因不明な症状の診断や症状の改善に全力を尽くす」と力を込める。

### 知識のアップデート

総合診療部は、16歳以上を対象に、どの診療科に該当するのか分からない診断が困難な症状に対して診療に当たっています。原因となる臓器が特定できず、社会的・心理的な要因も絡む健康上の悩みを解決するため、診療の「入り口」としての役割を果たしています。

受診する患者さんの症状として、何週間も高熱が続く不明熱や頭痛、顔や胸、おなかや背中などの痛み、手足のしびれやけいれん、むくみやめまい、慢性的なだるさや便秘、下痢、抜け毛や発疹、不眠や不安症状など多岐にわたります。

どの臓器が原因か分からない症状が診療対象のため、幅広い医学・医療の知識を日々アップデートする必要があります。命に関わる疾患の前兆の可能性もあるため、週に1度、部内でカンファレンスを開き、初診患者さんに関しては必ず医師や看護師スタッフ全員で検討しています。総合的な見地から治療方針を決めたり、原因疾患の特定を進めたりしています。

大学病院の特性を生かして各診療科と連携しながら、診断がついた時点でさら

に専門的な治療につなげています。

### 目立つ「コロナ後遺症」

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、昨年5月ごろから目立つようになってきたのが「コロナ後遺症」。20～40代の若い人に多いのが特徴です。

全身の倦怠感、少し動く息が切れる、記憶力や集中力が低下して脳に霧がかかったような状態、いわゆる「ブレインフォグ」といった症状により、仕事ができずに休職している患者さんもいます。厚生労働省の発表によると、感染者全体の10%以上に後遺症があるとされています。

現在そのような症状に対する治療薬がないため、改善に向けて症状を緩和させる対症療法を行い、漢方薬も治療に用いています。コロナ後遺症に限らず、ほかの体調不良やがん治療に伴う倦怠感や便秘異常などの症状にも、西洋医学の補助治療として漢方薬を取り入れています。

### 他診療科と密に連携

各診療科では、臓器別に細分化して専門的な治療を進めていますが、超高齢社

会において、さまざまな疾患を併発している高齢者が多いのが現状です。そうした状況を踏まえ、2018年度から全身を総合的に診療できる総合診療専門医の資格が新設されました。今後の県内医療を担う若手医師の人材育成も重要な役割の一つです。当院でも総合診療専門医育成研修を行っています。

健康上のあらゆる悩みの相談に応じることをモットーに、他の診療科との連携を密にし、患者さんの社会的、心理的背景も考慮した医療の提供を心掛けています。病診連携に努め、かかりつけ医や地域の医療機関からの紹介で診療しています。症状の改善が見られない場合は、診療情報提供書(紹介状)を持参しての来院をお願いいたします。



患者の治療方針などについて話し合うカンファレンス

総合診療部の受診は、かかりつけ医や地域の医療機関からの紹介状が必要。不明な点は下記にお問い合わせください。  
総合診療部 ☎027・220・8545 (平日午後2時～4時半)

理念「大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る」

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。  
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。  
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。  
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。



群馬大学医学部附属病院  
前橋市昭和町3-39-15 TEL.027-220-7111(代表)  
<https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>